

核酸医薬

糖尿病網膜症の治療薬開発支援

福岡の創業企業

革新機構が出資

官民ファンドの産業革新機構は1日、次世代薬として期待される「核酸医薬」の開発を目指す福岡市のバイオベンチャー、アクアセラピューティクスに4億5千万円を出資したと発表した。糖尿病の合併症の一つで、失明の原因になる糖尿病網膜症や、アトピー性皮膚炎の治療薬として実用化に向けた研究を進める。

医薬品産業は安倍政権が掲げる成長戦略の重点分野の一つ。創業ベンチャー企業

業には巨額の研究資金が必要だが、研究初期段階では資金も集まりづらいため、

「呼び水」役を担い、米国が先行する核酸医薬分野の活性化を狙う。福岡ひびき信用金庫(北九州市)子会

社のベンチャー投資会社、ひびしんキャピタルも同

日、アクア社に2千万円を出資した。

アクア社が開発するの

は、糖尿病網膜症やアトピー性皮膚炎の慢性化の原因になる「ペリオスチン」と

アクア社へ4億5000万円

いうタンパク質の生成を防ぐ薬。アクア社は、原因タンパク質の生成過程に安定的に作用する独自技術を保有している。九州大や佐賀大との共同研究で、2015年に臨床試験を開始。まず、糖尿病網膜症の治療薬について21年の実用化を目指す。

糖尿病網膜症患者は国内で約300万人とされるが、血糖値をコントロールするか、外科手術しか治療法はない。37万人とされるアトピー性皮膚炎も、かゆみを抑える対症療法が中心となっている。(前田淳)

生物の設計図であるDNAなどの成分を化学合成してつくる薬。従来の医薬品は、病気の原因となるタンパク質の働きを抑えるものが主であるのに対し、核酸医薬はタンパク質を生成する

設計図に働きかけタンパク質の生成を防ぐため、治療効果が高いとされる。一方、体内に入ると分解されやすく患部に確実に届くまでの技術などに課題がある。